

## 特集：マンチェスター留学記

## マンチェスター大学留学中間報告

松本 美貴子（筑波大学 生物学類 4年）

**研究課題と内容**（指導教員：Dr. Stuart allan）

「遺伝子改変マウスの肝臓、および脾臓における炎症反応に高脂肪の食事が与える影響について」

遺伝子を組み込み、アルツハイマー病を起こしやすくしたマウスに高脂肪の食事を与え、野生型マウスと脾臓、肝臓に蓄積するインターロイキンなどの炎症物質の量を測定し比べる。

また肝臓、脾臓の切片を作りアルツハイマー病の特徴であるアミロイド斑が見られるかどうか細胞を蛍光標識し顕微鏡で観察する。

**研究課題を介してどのような実験技術について学んでいるか？**

CBA、ELISAなどのたんぱく質の定量方法や、細胞切片の作り方、また蛍光物質を用いた免疫組織化学などを学んでいる。

**指導教官とのコンタクトの頻度。十分な指導があるか？アシスタント等日常的な相談相手がいるか等について**

実験はテクニシャンの方についてもらいながら進め、お昼ご飯や休憩にも付き合ってくれる。実験の結果については研究室のボスであるスチュアート先生やポスドクの方と話し合っ結果がどのような意味を持つか、今後どうするかについて話し合う。

**講義を受けている場合はどのような講義をとっているか。その内容と難易度について**

神経炎症について、脳の解剖学、ホルモンと行動 など。スライドのおかげで何とか理解できる。神経科学の講義に関しては筑波より充実している。

**健康上または安全上の問題について**

夜ぶらぶらと出歩かなければそんなに危ない町ではないと思う。ただ、ホームレスが多いためかられることもある。また歯が痛くても日本に比べて費用が高く、技術も低いといわれており、いくかどうか悩ましい。

**学生寮の生活環境と問題点について**

大通りに近い所に位置しているのでスーパーへも、学校へも行きやすい。ただ、施設が古く、壁が薄いので隣人の生活音が気になる。そして大部分が学部新入生のためとてもにぎやかである。

**その他、気がついたこと**

語学学校終了後もインセッショナルコースとして英語のクラスが無料で受けられる。

Communicated by Katsuo Furukubo-Tokunaga, Received March 4, 2010. Revised version received February 1, 2011.